

**平成22年度
中小企業の動向**

**平成23年度
中小企業施策**

第177回国会(常会)提出

事例3-1-16

Case 既存製品を活かして環境分野に進出し、 愛知万博への出展等により販路開拓に成功している企業

陶磁器産地として有名な滋賀県甲賀市信楽町にある近江化学陶器株式会社（従業員50名、資本金9,500万円）は、1874年に起業された老舗企業である。同社は、陶磁器製の建築物の外装及び床用のタイル等を主に生産しているが、建設業界の先行きの不透明感から、環境問題への社会的関心の高まりに伴う緑化対策に着目し、既存の陶磁器製タイルを活かした壁面緑化事業に新分野進出を果たしている。

同社は、起業以来、時代の要請に応じる形で、陶磁器技術を核に珪糸鍋製造、外装タイル製造と事業転換を行ってきたが、成長しつつある環境分野に着目して、関連会社を中心として建物の緑化事業に着手し、多孔質セラミックと陶磁器質を組み合わせた陶板とスナゴケを用いた植栽断熱発砲陶器「GIF-T」の開発に成功した。陶板部分は、長年培ってきた技術を活かして、外装タイル部分は陶磁器質で仕上げ、スナゴケを植える部分には多孔質セラミックを用いて両者を一体焼成する工夫を凝らした。また、タイルに植える植物を探し求めた結果、砂や石の基板で育ち、乾燥にも強いスナゴケに着目した。同社には、コケに関する専門人材はいなかったが、社員が学会に参加したり、また、大学の研究者を訪問したりすることで粘り強く情報を収集し、スナゴケを壁面緑化に用いることに成功している。

歴史を遡ると、同社の珪糸鍋は、1900年のパリ万博に出展され、外装用タイルは、1970年の大阪万博で「太陽の塔」に用いられている。同社のGIF-Tは、2005年の愛知万博で、巨大緑化壁「バイオラング」へ出展されたが、それを契機に注目を浴び、全国各地への販路の拡大に成功している。



愛知万博に出展した巨大緑化壁「バイオラング」

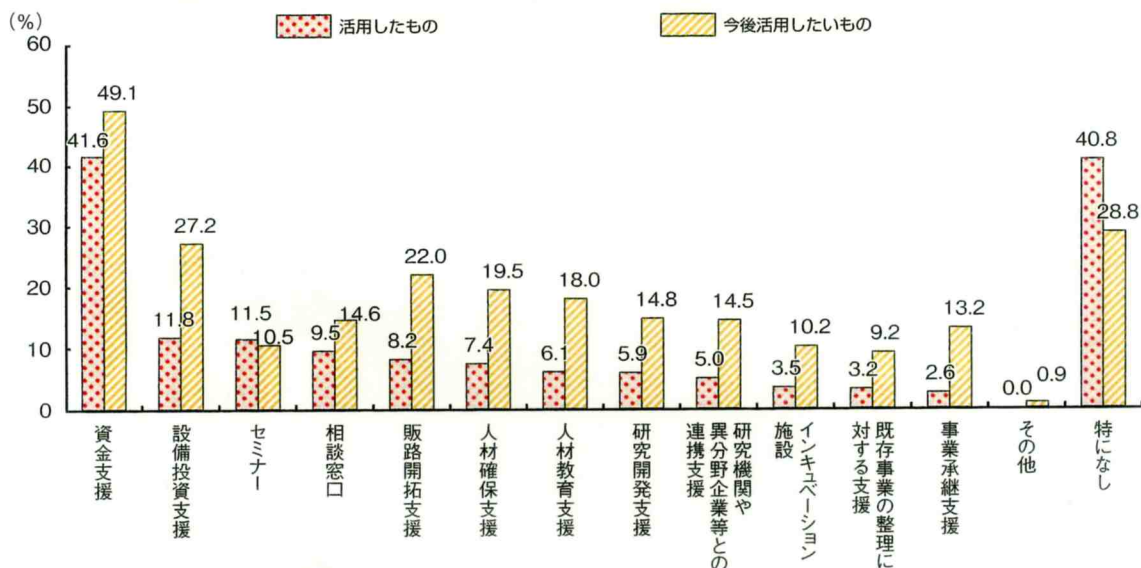
● 転業に対する公的支援

次に、企業は、転業に際してどのような国及び地方公共団体等の支援策を活用し、今後活用したいと考えているのだろうか。活用したものについて見ると、多くの企業が自社の転業に際して「資金支援」を活用していることが分かるが、「特になし」と回答する企業の割合も高い（第3-1-67図）。今後活用したいものと併せて分析すると、「設備

投資支援」、「販路開拓支援」、「人材確保支援」、「人材教育支援」等の項目において活用した施策と今後活用したい施策の乖離が大きく、さらに政策的な支援が必要な分野であるといえる。特に前掲第3-1-65図で見たように、販売先及び人材の確保が転業の成功要因となっていることを鑑みると、販路開拓や人材確保及び人材教育への支援が重要である。

第3-1-67図 転業に際して活用した／今後活用したい支援策

※ 「設備投資支援」、「販路開拓支援」、「人材確保支援」、「人材教育支援」等で活用した施策と今後活用したい施策の差が大きい



資料：中小企業庁委託「転業に関する実態調査」（2010年12月、(株)帝国データバンク）

(注) 1. ここでいう転業とは、新分野進出、事業転換及び業種転換をいう。

2. 複数回答であるため、合計は必ずしも100にならない。